

作物名：大豆

病害虫名：マメシクイガ（学名：*Leguminivora glycinivorella*）



幼虫，被害粒



幼虫の脱出孔

## 1 被害状況

### (1) 被害の特徴

幼虫は莢内に食入し、子実を食害する。子実は、主にマメの縫合部が半円形にかじられる。莢内に細かい糞が残る。莢のごく若い時期に食害を受けたものは不稔となる。

### (2) 虫の特徴

- ・幼虫：体色は橙紅色で、体長は約9～12mmになる。

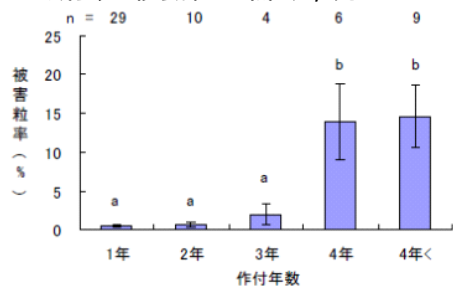
## 2 生態

年1世代発生。幼虫が、土中で越冬，越夏し，8月下旬～9月上旬に成虫が現れる。成虫は、日没前にダイズの草冠部を盛んに飛び回るのを確認できる。長さ2～4cm以上に達した莢に好んで産卵する。幼虫は莢内に食入して子実を食害する。10月上旬から莢に穴を開けて脱出し，土中で繭を作り越冬する。生育期間は卵1週間，幼虫2～3週間。

## 3 発生しやすい条件

ダイズの連作(4年以上)で被害が大幅に増加する。

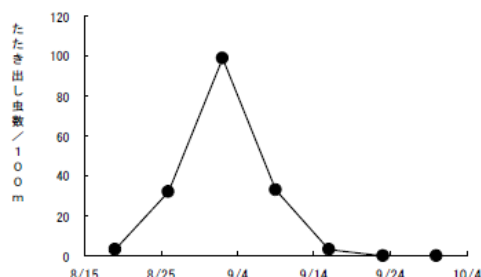
...成虫の移動性が低く，発生したそのほ場で繁殖し越冬する。



ダイズの作付年数とマメシクイガの被害粒率

同じ添字は、5%レベルで有意な差がないことを示す(Tukey-Kramer法)

図中の縦棒は、標準誤差を表す



マメシクイガ成虫の発生消長

平成20年 宮城県古川農業試験場

\* 普及に移す技術第84号「マメシクイガのダイズの総合的有害生物管理(IPM)のための防除法」参照(宮城県農業・園芸総合研究所ホームページ [http://www.pref.miyagi.jp/res\\_center/index.htm](http://www.pref.miyagi.jp/res_center/index.htm))

## 4 防除対策

(1) 耕種的防除：連作年数を1～2年以内として水稻との輪作を行う。

(2) 化学的防除：殺虫剤の散布は、ふ化幼虫の莢への侵入を防ぐため産卵盛期に行う。これは成虫発生盛期とほぼ同時期で、本県では9月初め(年次変動少ない)なので、9月上旬が防除適期である。残効期間の長いピレスロイド系殺虫剤が有効である。

## 5 出典

(1) 参考文献：原色病害虫診断防除編1(農文協)

(2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影